

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市社会福祉審議会第44回(令和5年度第2回)高齢者福祉等専門分科会		
事務局 (担当課)		健康福祉局地域包括ケア推進部地域包括ケア推進課 電話 042-769-9222(直通)		
開催日時		令和5年8月24日(木)10時00分~12時00分		
出席者	委員	12人(別紙のとおり)		
	その他			
	事務局	健康福祉局長、地域包括ケア推進部長、地域包括ケア推進課長、在宅医療・介護連携支援センター所長、福祉基盤課長、高齢・障害者福祉課長、高齢・障害者支援課長、介護保険課長、中央高齢・障害者相談課長、住宅課長ほか6名		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 開会 2 あいさつ 3 議題 第9期相模原市高齢者保健福祉計画(素案)について 4 その他 5 閉会		

審 議 経 過

内容は次のとおり。

1 開会

2 あいさつ

若林健康福祉局長よりあいさつを行った。

3 議題

第9期相模原市高齢者保健福祉計画（素案）について

【事務局】資料1、資料2、資料3-1、資料3-2により説明。

（羽田委員）高齢者の多様な居住環境の実現やいきがい・介護予防施策等の推進などの基本目標に設定する指標について、基準値や目標値の設定方法について教えていただきたい。

【事務局】これまで実施しているアンケートの調査結果や定量的に取ることができるデータを基に、基本目標の達成に資する指標を、具体的か、測定可能か、達成可能か、現実的か、期限が明確かといった部分を踏まえて事務局で設定し、次回の審議会でお示ししたいと考えている。

（大貫委員）指標については、誰が見ても分かりやすいものにすることが一番大事である。文章で示されても理解しづらいため、数値化できるものは数値化していただいたい。

【事務局】計画については、市民の方向けに作成しているということを意識して策定していきたいと考えているため、指標についても、分かりやすいものにしていきたい。

（梶川委員）短期間の間にEBPMについて、咀嚼をして計画に組み込んでいただき敬意を表す。ある研究者の研究によると、国の政策のロジックモデルの9割が破綻していると言われている。それが駄目だということではなく、政治的な背景や、エビデンスが取れないなど、数値化するのが非常に難しい問題がある。

しかし、やっていかなければならないことであり、市が、勇気を持って第一歩を

踏み出したのは、非常に誇らしい。

(笹野会長) 元はと言えば、梶川委員のご提案があったからである。このような形で組み込んでいただけたのは、ありがたいことである。

(梅澤委員) 介護予防に関しては、総参加者の数が少ないと感じている。短期集中予防サービスというものが行われるのであれば、高齢者に対する取っ掛かりのアドバイスがしやすいと思う。多くの高齢者が、自信喪失感があることから、介護保険の利用を最初はかなりためられる。実は、介護予防という概念が、あまり定着していない。お金がかからず取っ掛かりが楽で、やるのが難しくないような介護予防サービスは賛成できる。また、我々が提案するにあたり、プロセスが複雑だと、説明が難しい。従来介護予防の事業実績や、新しいサービスを提供する根拠等が分かると、取組みやすい。さらに、資料やパンフレットがあるととても助かる。

【事務局】 こちらのサービスについては、平成28年頃から総合事業として、実施しているものである。要支援1・2の状態、まだやれることは多くあるが、買い物に自信がなくなってしまう方や、料理は好きだが、作るのが難しくなってしまう方がいる。そのような場合に、介護保険サービスを利用する機会が多かったが、そうすると、できないことがさらにできなくなってしまう、重度化してしまうケースがある。そこで、少しできなくなってしまう状況の時に、短期集中予防サービスを利用し、リハビリ職が声掛けをしたり、家でできるセルフケアを教えたりして、短期的に支援を行い、再自立を促す。先ほど、分かりやすいチラシやパンフレットの作成という話があったが、おっしゃる通りであり、皆さんによく伝わるようなものを作っていきたいと思う。

(梶川委員) 西東京市で短期集中予防サービスをモデル事業として実施している。医師が監修しており結果が出たというモデルケースが何ケースもあり、今後それを広げようという動きがある。パンフレットもあるので、問い合わせしてみてもどうか。

【事務局】 問い合わせをし、情報を仕入れていきたいと思う。本市でも令和3年からモデル事業を実施しており、昨年度については、36の方に実施いただき、26の方が、介護保険サービスを利用しない状態になっている。今年度は、200の方に短期集中予防サービスを受けていただく方向で取り組んでいる。

(笹野会長) これまで、噛むことや口のケアについて、気を遣っておらず衰えていることに気づいていなかった。イベントで医師会の先生に教えてもらったが、びっく

りするほど滑舌が悪く、口の筋肉が動かなかったり、噛む力が弱くなったりしていることに気づいた。オーラルフレイルについては実感しているため、計画の中に何らかの形で実行する施策の中に入れてもらいたい。

(田中委員) オーラルフレイルに関しては、市歯科医師会のほうで、啓発活動を行っており、健康フェスタやさくらまつりなどにも参加して啓発していこうという動きがある。また、高齢者のサロンでも啓発していこうと考えている。しかし、人手不足もあり、他の歯科医師の先生もできるような人材をどんどん増やしていこうという活動も今行っているところである。それと、第9期の重点項目についてだが、認知症施策の推進が大事なところだと考えており、今回の案にはなかったため、認知症を入れてもらえると勢いづくのではないかと思う。

【事務局】 オーラルフレイルについては、個別の部分でしっかりと入れていきたいと考えている。認知症の部分については、重点的な取組に入れるかどうか検討させていただきたいと考えている。また、認知症基本法が6月に公布されており、今後1年以内に施行される。認知症の人と地域の方が互いに暮らせるような社会を目指すというのが大きな目標になる。そのような法の背景を踏まえて、様々な施策を総合的に取り組んでいきたいと考えている。

(阿部委員) 私は地区社協のこともやっており、比較的元気な高齢者と関わる人が多い。この計画に網羅されているようなことを伝えるようにしているが、健康に関する「ヘルスリテラシー」という視点が欲しいと感じた。色んな情報があっても、それを理解する力がない。例えば、糖尿病で困っていると言っている方が、甘いものなど好きなものを食べてしまい、食と病の因果関係を自身で理解していない。自立支援も必要だが、自立する能力を支援することも必要である。また、健康診断を毎年行っているが、健康に問題がない方が5パーセント程度であり、健康診断の結果を理解し、自分の生活様式に落とし込めていない方もいる。次に、サービスを提供する側の仕事のことだが、利用者は、自助努力をあまり意識せず、困ったときに助けてもらえばよい、支援者は、何かあったら支援しますという関係になってしまっている。そういう状況ではなく、自助努力を促すような施策が必要である。

(島森委員) 先ほどの短期集中予防サービスについてだが、リハビリの意味や、自助努力すれば自分でやれることが増えるといったことを、パンフレット等にしっかりと落とし込み訴えかけていった方がよいと思う。

【事務局】 今サービスを受けている方は、旅行に行きたい、ハイキングに行きたい、

庭いじりをしたい等それぞれの目標があり、それをできるようにするため、リハビリ職員が3ヶ月ぐらいかけて、声掛けをしている。それぞれの方の目標に沿ったりハビリを行っており、自信を取り戻すための心の面のリハビリも行っているというような状況である。

(森谷委員) シニアサポート活動の担い手ということに関して、興味を感じている。高齢者のやりがいや、社会参加ということに関して非常に有効的であると考えている。そして、健康寿命の延伸にも繋がっていく。介護が必要になってきている家族がいるが、子どもを短時間でも見ていてというような役割を担ったことにより、良い状態になったというような体験がある。そのようなことから、高齢者には、社会との繋がりや、自分の役割があるといったことが非常に重要であると感じた。

(笹野会長) 社会参加でいうと、地区社協や地域づくり事業などに、参加していただき、担い手や受け手ということを超えて皆で取り組んでいる。このような取組は、森谷委員が言われたように、やりがいや生きがいに繋がり、これまで出て来られなかった人も、出てくる機会になる。

(篠塚委員) 私たちは、地域で様々なことを行っているが、前期高齢者の方が非常に多い。いきいき百歳体操やいきいきサロンなど、担い手の方が少ない状況にあり、ボランティアの私たちに負担がかかっている。そのため、担い手不足ということについて、計画素案にも書かれているが、本当にそれがやっていけるのかということについて心配している。現在は、前期高齢者の方が担い手になっているが、やがて後期高齢者になってしまう。その後に引き継いでいく方がいないというのが現状である。また、計画については、もっと分かりやすくしてもらわないと、頭に入ってこない。先ほどの話に戻るが、田中先生のおかげで、我々の地域ではオーラルフレイルの取組みが盛んである。DVDもあり、特定の人には来て実施しているが、全体的に周知できていない状況があり、オーラルフレイルという言葉が難しく、分かりやすい言葉を考えてほしいといった意見が我々の地区では出ていたりする。

(大貫委員) 高齢者の社会参加の推進や高齢者の生きがいづくりについては、子どもの居場所や子ども食堂などと、上手く連携しながらできればと感じている。

(笹野会長) 他の居場所が、高齢者の居場所となっても問題ないですし、担い手になったり、受け手になったりする場合がある。

(相澤委員) EBPMの考え方については、非常に素晴らしいことだと思うが、大変

難しいのではないかと感じている。合理的なエビデンスに基づくものという考え方のなだと思ふのだが、広範囲の人に認められるエビデンスを設定することが可能なのか疑問である。基本目標とエビデンスの繋がりをどのように一致させていくのか、簡単に理解できるように説明していただきたい。

【事務局】基本目標と指標との関係性については、行政が計画を基に実施した事業の成果として、市民がどのように感じ取ったかという点に関して、3年に1度実施している実態調査の関係する項目を指標に設定することで、基本目標に近づいたか否かを測定していきたいと考えている。指標については、今後設定しお示ししたい。

(梅澤委員) 医療介護連携に関しては、ずっと前から燻っている問題で、未だに解決が困難であり、介護に関して考え方を共有する場というものが、実はない。医療・介護の関係者が集まるネットワークなどがあるとよいと考える。

【事務局】この計画を策定するに当たり、9月に地域密着型サービス事業所の意見交換を行う予定である。介護の組織が一本化されていないということが大きな課題だと考えているが、医療も介護も必要な人が増えてくるので、そこの連携をしっかりと取っていくということでは、医療と介護の両方を担うような事業所が中核になっていくと思う。連携を深めていくことは非常に重要であると考えているため、しっかりと取り組んでいきたい。

(森谷委員) 介護人材不足は、非常に大きな問題であり、ハローワークとして何ができるのか考えている。相模原市と連携したセミナー等の実施や、これからの担い手である学生に対しての介護分野の仕事の魅力発信ということが、必要ではないかと考えており、ハローワークも少しでも役に立てることを実施していきたいと思っている。

(大貫委員) 民生委員は、高齢者に対する個別訪問事業を実施しているが、人員不足のため、全て把握するのは困難であり、自治会の会議等に出向き、情報があったら民生委員に連絡してくださいとお願いしている。しかし、どうしても個人情報の問題が絡んでくる。そのようなところをネットワークづくりという観点からスムーズに行うことができればよいなと思っている。

(笹野会長) 地域のネットワークづくりや包括的な支援体制の整備を行う上で、行政と地域で取り組んでいく場合には、地区社会福祉協議会、自治会連合会、民生委員児童委員協議会といった各地区に必ずある組織が連携して取り組んでいる、福祉コ

コミュニティ形成事業や小さい地域での支え合いのためのサロン活動が絡んでくる。そして、地域ケア会議では、ほとんど同じメンバーが地域づくり部会などを構成しているため、そのネットワークを、今まで以上に綺麗に整理がされ、円滑になればよいと考えている。また、地域によっては連携が上手くいっているところもあるが、そうではないところもあり、連携を推進していくということが書かれると、問題意識を持っている人たちにも訴えることができるのではないかと考えている。そういったところについて、ご検討いただければと思う。

(大貫委員) 前回、市営住宅に申し込んだが抽選に外れてしまった方の話をしたが、その方は、現在住んでいる場所の近くに住むことを希望していたが、緑区から南区に転居せざるを得なかった。このようなことから、高齢者の住まいづくりに関しては、住環境等に配慮していただきたいと考えている。

【事務局】市では、かながわ住まいまちづくり協会というところに委託をし、高齢者住まい探し相談会というものを各月ではあるが、各区で実施している。相談会においては、追い出されてしまい困っているという相談もあり、宅建協会の不動産屋にアドバイザーとして来ていただいていたたり、高齢者の方が不動産店に行く場合に付添を行うボランティアのサービスを行っていたりする。このようなところにも情報提供を行い、なるべく近くで今の住まいの環境を変えないようなところに案内することについて、連携して取り組んでいきたいと思う。

(石黒委員) 老人クラブでは身体の弱い方や単身の方などを対象として、友愛活動というものを行っている。しかしサポートする方が、だんだん歳をとり、担い手が少なくなっている。このような状況は、私一人の力ではどうにもならないので、皆さんの力を借りて運営していかないといけない。その力をどのように動かすか、皆で話し合いながら、活性化に努めていきたいと考えている。

4 その他

事務局より「意見シート」の取扱いについて説明を行い、各委員に意見の提出について依頼を行った。

5 閉会

以上

相模原市社会福祉審議会高齢者福祉等専門分科会 委員名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	相澤 由美	相模原人権擁護委員協議会		出席
2	阿部 匡秀	一般社団法人相模原市高齢者福祉施設協議会	職務代理	出席
3	石黒 雄彦	相模原市老人クラブ連合会		出席
4	梅澤 慎一	一般社団法人相模原市医師会		出席
5	大貫 君夫	相模原市民生委員児童委員協議会		出席
6	梶川 義人	日本虐待防止研究・研修センター		出席
7	笹野 章央	社会福祉法人相模原市社会福祉協議会	会 長	出席
8	篠塚 実希子	相模原市自治会連合会		出席
9	島森 政子	特定非営利活動法人 相模原市障害児者福祉団体連絡協議会		出席
10	田中 雄一郎	相模原市歯科医師会		出席
11	羽田 彌	特定非営利活動法人相模原ボランティア協会		出席
12	森谷 郁美	相模原公共職業安定所		出席